

日本薬学会を後ろ盾にして生涯学習を

内山 充

私は予てより、薬剤師の置かれている卒後の生涯学習環境が、必ずしも十分でないと考えていた。前回のコラムにも述べたように、医師、看護師に比べると、質的に保証された卒後生涯研修の場である薬科大学や学会とのつながりが極めて薄く、数少ない意欲的な生涯研修プロバイダーと受講者の個人的な努力によって生涯研修体制が支えられている場合が多い。

現在、質の高い医療体制の確立が進む中で、薬剤師の専門性に対する新しい期待感が生まれ、さらに、医師、看護師では資質の向上のための卒後研修の見直しや検討が活発に行われている動向を見ると、薬剤師生涯学習について改めて考える大切な時期が来ているように思える。

薬剤師が持っている専門性 (professional competence) は「薬学」であり、優れた薬剤師を生み出すことは、薬学の大きな責務である。そして、卒後の生涯学習が、国民の求める薬剤師を育てるうえで不可欠であることはいうまでもない。そこから医療への貢献も医薬品の開発も始まる。薬剤師の目指す専門 (specialty) 領域は多様であるが、それらは常に薬学という専門性に支えられて、はじめて意味のある活動となり得る。我々は薬学という professional を常に心に刻み、決して薬学を忘れてはならない。

薬学の唯一の総括学会は「日本薬学会」である。薬剤師が持っている、そして他の医療職に勝る知識・技術全般の進歩発展の情報は「日本薬学会」から得られる。薬剤師は日本薬学会を、自分の基本的能力・適性を維持向上させる拠点と捉えるべきである。最近、薬剤師実務活動の向上を目指した特定領域の学会がいくつか設立されたことは好ましい傾向であるが、目的志向ではなく基盤充実のための自己形成の場は日本薬学会を措いて他にない。しかしこれまで、なんとなく薬剤師にとって日本薬学会は、あまり親近感を抱けない存在だったのではないか。それは、薬剤師がやや敬遠していたか、あるいは日本薬学会の活動が不足していたためかもしれない。しかしこれは、薬剤師にとっては不幸なことであった。

幸い、最近日本薬学会の実務薬剤師に対する関心が高まってきた。本年3月の年会における会頭講演でも、「学生が薬剤師国家試験に合格することだけに満足せず、真に優秀な薬剤師を育て、卒業後もサポートを続ける」方針の表明があった。この機に臨んで、薬剤師生涯学習の重要性を認識し、生涯学習に関心を持つ会員が協力して「生涯学習部会」をつくり、それぞれの立場を生かしながら、日本薬学会の豊富な事業と活動を、責任をもって薬剤師の職能向上に役立たせる、あるいは薬剤師職能の中から新しい基礎研究・応用研究の発見や提言を行う、という活動が出来ないかと考え、有志と相談らって計画中である。

生涯学習 (研修) の理念、手段、課題、方向性、あるいは関与の仕方などについて、関係者が随時交流し情報提供や意見交換をすることによって、基礎から臨床までの広い範囲での薬学の知的財産を、薬剤師の日常の学習活動をサポートする目的で、有意義に使う方法が見出せれば、薬剤師の社会活動を、より一層充実させる生涯学習環境が形成され、医療職の間で働く薬剤師にとってどれほど強い力と支えになるか計り知れないと考える。生涯学習部会が発足できたときには、多くの方々のご協力をいただきたい。

(2009.9.16)